



2021年2月12日、「チセヌプリスキー場の売却にかかると入札談合行為と背任疑惑の真相究明を求める陳情書」を蘭越町議会議長に提出しました。

蘭越町への政策提言

なぜ蘭越町は山を捨てたのか



「町は、ニセコ積丹小樽海岸国定公園の区域を持ち、公園総面積の39%が蘭越町となっています。特に、優れた自然環境にあるニセコ連峰のほとんどは蘭越町に位置します。」

第5次蘭越町総合計画「まちづくりの基本目標」には、こう記されていた。そして、チセヌプリスキー場は、『ニセコ』の好景気を蘭越に呼び込むために重要な位置にあった。うまく利用できれば、蘭越町の知名度も上がり、好景気を呼び込めたはずだ。

しかし、第6次計画の策定の2年前、町は町営チセヌプリスキー場を売却した。そして、第6次計画の「まちづくりの基本目標」からは「国定公園」も「ニセコ連峰」も抹消された。問題なのは、選定プロセスの不正が疑われることだ。詳細は裏面を参照ください。

『ニセコ』の追い風を利用した地域振興

第6次計画は、「近隣自治体とは異なる発展の方向性を志向します」としながら、サブタイトルに『奥ニセコ』を使っているように、施策の方向性には一貫性がない。隣町が世界的リゾートとして発展しつつあるのだから、その追い風を利用することが最も効果的な地域振興である。共にニセコ観光圏を構成し、国際リゾートを目指すことが決定しているのだから尚更だ。ニセコ観光圏を利用して町の知名度を上げるために重要なことは、『ニセコ』に魅かれる人々の志向に合わせたPRや施策を実施することが早道である。町外の人たちが『ニセコ』にどのようなプラスイメージを持っているかを理解した上で、蘭越町をいかにプロモートするか、一貫性のある方策を決めることが必要だ。そうすることによって、限られた予算で高い効果を生むことが可能となる。ただ農村や田園風景をアピールしても、真狩村や京極町に対してさえ、優位に立つことはできない。

民主主義が保証する自由と権利は、報道と選挙のみによって実現するものではなく、不断の努力（憲法第12条）を用いて保持するものである。このチラシは、北海道新聞政治活動折込広告取扱基準に従って、蘭越町民に皆さまに野村かずやの政治政策を知らせるために作成された政治活動折込広告です。

町政懇談会の廃止

地方選挙においては、定員割れの自治体が続出し、投票率も下落を続けている。このことは、住民の行政参加どころか、興味さえ失われつつあることを示しています。一方、行政側の人々は、「町民が主役の～」といったキャッチコピーで、住民の声が行政に反映されているかのような広報を盛んに行っている。蘭越町の広報誌も、「住民主権」「地域主権」「住民協働」といったキャッチコピーで彩られている。「住民主権」を実現する選挙以外の施策は、どうやら町政懇談会のようだ。しかしながら、町内会ごとに実施される町政懇談会は、町内会の小さなエリアに限定した公共事業の話しになりやすく、町全体の話題となりにくい。さらに私が町の総務課の担当者に聞き取り調査をした限りにおいて、町政懇談会の出席するのは、町内会長をはじめとした決まった人たちのようだ。町の行政全般に対する活発な意見交換が行われているようには聞こえませんでした。

町政懇談会の実態はさておき、それを主宰する町の為政者らは、町政懇談会をもって、町民の意見を聞いたかのようにアピールしている。町政懇談会で意見がなければ町民の意見がないと扱い、町政懇談会で説明すれば、町民の合意を得たかのように扱っているようだ。

町の公共事業にかかる予算を町内会で取り合うことになりがちな町政懇談会は廃止し、各案件ごとに利害関係者をはじめ町民の全体の意見を聞く方法を検討したほうがよいだろう。農政の案件なら農業関係者、商業の案件なら商業関係者、エリアではなく、専門性毎の討議の場とすることによって、町政が公益に向かうことができるはずだ。

THE SOSEI COUNCIL 創世カウンスル

創世カウンスルは、政治資金規正法第6条第1項の規定により、北海道選挙管理委員会を経て総務大臣に届出済の政治団体であり、中央集権システムの構造的な問題の提起、民主的な地方自治の実現のための政策提言を行う政治団体で野村かずやの後援会としての機能を有する。



野村 かずや

町全
民力

チセヌプリスキー場売却のなぜ？

町民目線で考えてもらったのでしょうか？
どうして低価格で手放すことになったのか？

1 回目公募 上場企業UTホールディングスが32ページの提案書で応募した

提案の抜粋

蘭越本社の設置、社長ほか従業員の移住、町民の新規採用
通年型リゾート運用のためのサマーアクティビティの実施
子供向け体験型研修、企業社員・自治体職員向け研修事業
リフト撤去・Tバーリフト/ロープリフトほか、合計 3.75 億円の投資
現実的な客単価（リフト 2,000 円、CAT15,000 円）で、年間 9 万人超の集客
蘭越町民に対する優遇（年間フリーパス・1 日料金半額・小学生無料）
蘭越町ニセコ連峰歩くスキー大会への全国からの集客
蘭越町の人口の約 2 倍の事業規模を生かした蘭越町特産物の販売
蘭越の農産物の加工開発、第 6 次産業化への寄与

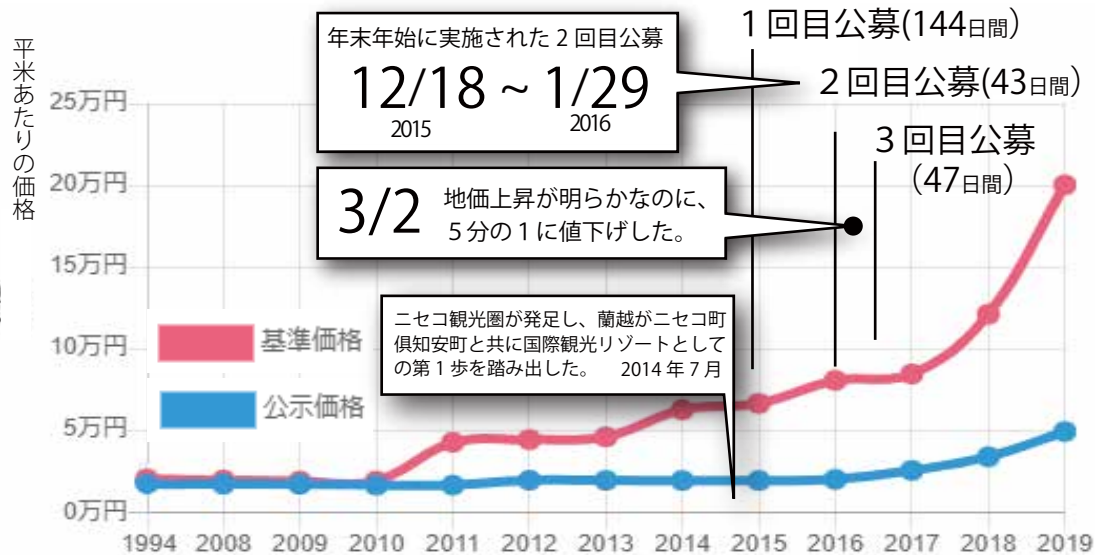


応募から約半年後に蘭越町側が条件変更したことなどから、白紙撤回

2 回目公募 多くの事業者が活動を停止する年末年始を含んだ43日間に行われた。

そして
大幅値下げ
1000
~~2000~~ 訂正
~~5000~~
売値 **5000** 万円

当初価格の5分の1



国土交通省の公示する公示地価、基準地価に基づいて算出された倶知安町の地価

地価上昇の真ただ中、賞味期限切れ食品以下の扱いに匹敵する大幅値引き

3 回目公募

売値 **1000** 万円

応募は6社

塗り潰された5社の提案内容



提案にない事業の運営

蘭越町が譲渡先に選んだ企業は、富裕層が全山を独占する運営を行い、客以外の立ち入りを禁止した。事業形態は、公募時の提案とは異なっているが、蘭越町はそれを容認している。

蘭越町に対し、選定理由を示す文書を2回求めましたが、2回とも塗り潰されました。町の非開示決定処分を取り消し、公開を求める審査請求を行っていますが、おそらく長期戦となります。この文書は、蘭越町民とチセヌプリファンの方々に、町営スキー場が処分された経緯を示すために作成しました。創世カウンスル 野村かずや

詳しくは web で



不幸なチセヌプリ

rural-escape.com/chisenupuri
チセヌプリの公募売却は、入札談合等関与行為と背任に抵触する可能性があります。町民が主役となって問題と向き合うために詳細をまとめています。